

材質	配管用炭素鋼管 黒の外表面一次防錆塗装。内面に硬質塩化ビニール樹脂 (JIS K6742) をコーティング。								
品名	SGP-VA 水道用硬質塩化ビニールライニング鋼管 (JWWA K116)								
形状	 両ネジ								
全長 呼び径	短ニップル	50mm	65mm	75mm	100mm	125mm	150mm	200mm	
15A 1/2B	200円 400個	210円 400個 (100×4個)	230円 320個 (80×4個)	270円 280個 (70×4個)	300円 160個 (40×4個)	350円 160個 (40×4個)	400円 120個 (30×4個)	490円 120個 (30×4個)	
20A 3/4B	220円 200個	270円 280個 (70×4個)	300円 200個 (50×4個)	330円 160個 (40×4個)	360円 120個 (30×4個)	420円 100個 (25×4個)	480円 80個 (20×4個)	580円 80個 (20×4個)	
25A 1B	330円 200個	350円 200個 (100×2個)	400円 140個 (70×2個)	420円 120個 (60×2個)	510円 90個 (45×2個)	600円 80個 (40×2個)	670円 80個 (40×2個)	800円 60個 (30×2個)	
32A 1 1/4B	460円 100個		540円 100個 (50×2個)	570円 80個 (40×2個)	680円 70個 (35×2個)	830円 70個 (35×2個)	920円 60個 (30×2個)	1100円 40個	
40A 1 1/2B	570円 80個		660円 70個 (35×2個)	720円 60個 (30×2個)	850円 50個 (25×2個)	1000円 50個 (25×2個)	1120円 40個 (20×2個)	1330円 36個	
50A 2B	830円 55個		890円 60個 (30×2個)	950円 48個 (24×2個)	1160円 40個 (20×2個)	1370円 30個 (15×2個)	1510円 30個 (15×2個)	1800円 20個	
65A 2 1/2B	1920円 24個				2290円 24個	2530円 24個	2800円 18個	3120円 12個	
80A 3B	2560円 18個				2660円 16個	3000円 16個	3170円 12個	3650円 9個	
100A 4B	3520円 6個				3700円 10個	4200円 10個	4580円 8個	5250円 5個	
125A 5B	8610円 4個								
150A 6B	10260円 4個								

※価格下段は大箱入数、括弧内は小箱入数。

▼材質規格

SGP-VA 水道用硬質塩化ビニールライニング鋼管 (JWWA K116)
SGP 配管用炭素鋼管 黒 (JIS G3452) の外表面に一次防錆塗装を施し、内面に硬質塩化ビニール樹脂 (JIS K6742) をコーティングしたもの。管内面の耐食性、耐油性、耐薬品性に優れています。内面は平滑な硬質塩化ビニール樹脂であるため、摩擦抵抗が小さく、管内部での流量や流速の変化を最小限に食い止める事が出来ます。これまでの溶融亜鉛めっき鋼管に代わり、一般家庭用の水道給水配管用としても使われており、その他、空調冷却水、工業用水用にも使われ、広範囲に使用できます。

▼用途

主に屋内の水道給水配管用

▼化学成分

種類	記号	化学成分 (%)	
		P	S
配管用炭素鋼管	SGP	0.040 以下	0.040 以下

▼検査圧力

漏れ (空気圧)	0.5Mpa(5.1kgf/cm ²)
耐圧 (水圧)	2.5Mpa(25.5kgf/cm ²)

▼ねじ規格

管用テーパねじ [記号 : R (PT)] を要する外ねじタイプの管継手です。(JIS B0203 に準拠) 内ねじ管継手や、その他管材部品、流体機器などとの接合において、耐密性を主目的とするねじとの結合に適します。

▼最高使用圧力 ▼機械的強度

1MPa SGP 鋼管と同じです。管端防食継手使用の場合で 0 ~ 40°C

▼推奨使用温度

▼ねじの検査について

ねじの検査は、すべて日本工業規格 (JIS 規格) の定める規格番号 JIS B0253 に規定するテーパねじゲージを用いておこなっております。尚、当社の使用する検査ゲージメーカーは、オーエスジー (O S G) 製を使用しております。

▼結合方法

締め込む際は、手締め後に、パイプレンチ等の工具を用い、トルクをかけて締め込む必要があります。但し、耐密結合するには、しっかりと締め込んだとしても、実用なものには山の頂と谷底との間にわずかながら空間が出来、完全な気密が確保できません。従って、組み付け前のおねじにシールテープ (テープ状の隙間埋め材) を巻くか、液状の同シール材を塗布するなどの処置が必要です。(シール材は配管用途に適した種類のものを選ぶ必要があります。) また、特に漏れに気を配る場所での組み付けに際しては、おねじ側にシールテープ (2 ~ 3 周程度) を巻きその上からシール材を塗布し、そしてめねじ側にもシール材を塗布し締め込む事で、耐密を確保します。